

## 稠密GPS観測網による2008年岩手・宮城内陸地震の余効変動観測

6月14日に発生した本震発生を受け、東北大理、北大理、名大環境、九大理の各大学の研究者・大学院生が翌15日に現地入りし、震源域周辺にGPS観測点を計16点設置した。観測点の多くは公立小・中学校の校舎内に設置され、GPSアンテナは屋上にボルト埋設もしくは可搬型アンテナ基台により固定した。震源域周辺には、地震発生前より東北大が設置していたGPS定常観測網(緑丸印)、国土地理院GEONET観測網(白ひし形)、更に2007年10月より開始された独立行政法人 原子力安全基盤機構による内陸の活断層調査に基づく震源断層評価手法の検討事業により設置されたGPS観測点(赤丸印)、さらに国立天文台水沢VERA観測所が設置する観測点(白丸印)が設置されており、それらを補完するように稠密GPS観測網を展開した。これら観測データの統合処理により、今後余効変動の詳細な時空間変化を明らかにする予定である。

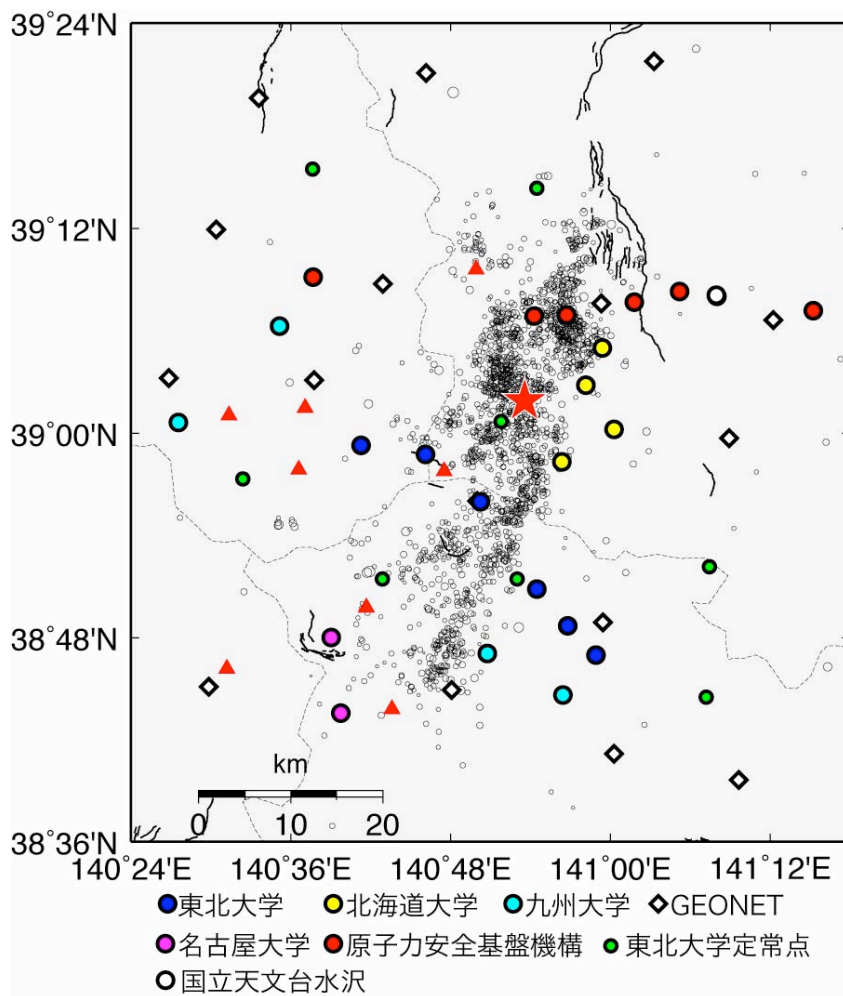


図9 観測点配置図。ひし形はGEONET観測点、赤丸印は原子力安全基盤機構により2007年10月以降設置された観測点、緑丸印は東北大学の定常観測点、白丸印は国立天文台VERA観測所の観測点を示す。他の丸印がGPS大学連合により設置された臨時観測点を示す。余震分布は東北大自動処理によるもの。

謝辞: 本研究は国土地理院GEONET観測点・国立天文台水沢VERA観測所のGPSデータを使用しました。また原子力安全基盤機構(JNES)が平成19年度、20年度に実施した内陸の活断層調査に基づく震源断層評価手法の検討事業で取得されたGPSデータを使用しました。また臨時観測点の設置に際しては各教育委員会、小・中学校等にご協力を頂きました。記して感謝致します。